

わくわく無限大！
個性いろいろ
ともに創る
驚きの未来。

2025年2月期通期決算 (補足説明資料)

2025年4月14日

株式会社クリエイト・レストランツ・ホールディングス
【東証プライム 証券コード3387】

目次

I. 業績ハイライト

1. 業績の概要[IFRS]
2. 業績の概要(カテゴリー別)
3. 要約貸借対照表
4. 資本コストを意識した経営の実現
5. 要約キャッシュ・フロー計算書
6. キャッシュアロケーション

II. 2026年2月期業績予想及び株主還元策

1. 2026年2月期通期業績予想の概要
2. 2026年2月期通期業績予想(売上収益及び営業利益の増減について)
3. 2026年2月期通期業績予想(カテゴリー別)
4. 株主還元策①②

III. トピックス

1. コントラクト事業の拡充
2. 関東物流センター統合
3. グループ連邦経営の進化(FastWorks社設立)
4. M&Aについて
5. 前中期経営計画振り返り

IV. Appendix

1. 出退店及び店舗数について
2. 既存店前年比の推移
3. サステナビリティへの取り組み
4. 会計監査人の異動について

I. 業績ハイライト

1. 業績の概要[IFRS]

前期に対して増収増益を達成(二期連続)、売上収益及び営業利益は過去最高
売上収益1,564億円(前期比+106億円)、営業利益85億円(同+14億円)、親会社の所有者に帰属する当期利益56億円(同+5億円)、調整後EBITDA261億円(同+5億円)

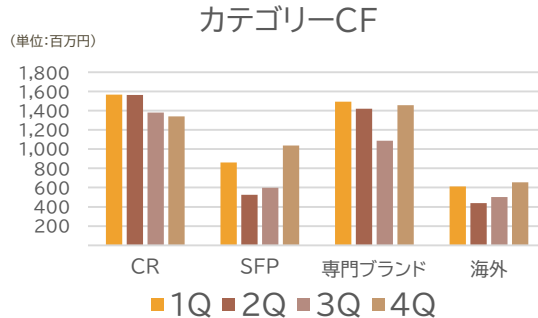
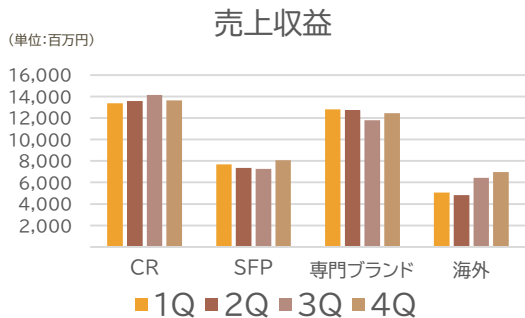
- ✓ 売上収益について
【前期比】メリハリ消費やインバウンド需要を捉え既存店前年比は106.1%と堅調に推移、下期にグルーピングしたWildflower及び一幻フードカンパニーの連結貢献(+41億円)により、+106億円と増収
【予想比】通期予想に対しても+4億円と予想通りに着地(100.2%)
- ※1:既存店前年比
- | | 1Q計
(3-5月) | 2Q計
(6-8月) | 3Q計
(9-11月) | 12月 | 1月 | 2月 | 4Q計
(12-2月) | 通期 |
|----|---------------|---------------|----------------|--------|--------|--------|----------------|--------|
| 目標 | 106.4% | 107.6% | 106.0% | 102.6% | 103.3% | 99.6% | 102.0% | 105.4% |
| 実績 | 106.1% | 107.2% | 107.1% | 106.0% | 106.1% | 104.2% | 105.5% | 106.1% |
- ✓ 利益について
【前期比】営業利益:増収効果に加え、適正価格化の継続によりコスト上昇や、M&Aのアドバイザー費用も吸収した上で+14億円の増益
【予想比】減損損失等一過性の費用の増加(△3億円)、予想を上回る原材料比率の上昇(△5億円)もあり予想に対し営業利益8億円未達も、重要なキャッシュフロー指標である調整後EBITDAは概ね達成

(単位:百万円)	2024年2月期 (累計)	2025年2月期 1Q単(3月-5月)	2025年2月期 2Q単(6月-8月)	2025年2月期 3Q単(9月-11月)	2025年2月期 4Q単(12月-2月)	2025年2月期 (累計)	対前年 差異	2025年2月期 通期予想	達成率
	実績	実績	実績	実績	実績	実績		24年10月11日開示	
売上収益	145,759	38,286	38,180	38,935	40,951	156,354	+10,595	156,000	100.2%
営業利益	7,075	2,753	2,093	2,287	1,369	8,504	+1,428	9,300	91.4%
税引前利益	6,632	2,584	1,836	2,147	1,090	7,659	+1,026	8,700	88.0%
当期利益	5,608	2,046	1,460	1,674	1,047	6,228	+619	7,000	89.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	5,041	1,852	1,340	1,542	855	5,590	+549	6,100	91.7%
調整後EBITDA ※2	25,583	7,106	6,111	6,392	6,514	26,124	+541	26,200	99.7%
実質営業利益 ※3 (営業利益+減損損失等)	10,173	3,351	2,362	2,525	2,554	10,794	+621	11,300	95.5%

※1:既存店前年比は、前年の2024年2月期の数値を用いて、且つ休業店舗も含めて算出しています
※2:調整後EBITDA＝営業利益＋その他の営業費用－その他の営業収益(協賛金収入を除く)＋減価償却費＋非経常的費用項目(株式取得に関するアドバイザー費用等)
※3:実質営業利益は、営業利益から減損損失等一過性の費用を除いた数値です

2. 業績の概要(カテゴリー別)

- ✓CRカテゴリー：メリハリ消費やインバウンド需要により通期で好調を維持し増収増益
- ✓SFPカテゴリー：インバウンド需要は引き続き堅調、人件費増もこなし増収増益
- ✓専門ブランドカテゴリー：一幻フードカンパニーの連結貢献に加え、好調ないっちゃんが牽引し増収増益
- ✓海外カテゴリー：Wildflowerの連結貢献があるものの、インフレ疲れの影響を受けIl Fornaioが苦戦し増収減益



※1:既存店前年比

カテゴリー	1Q計 (3-5月)	2Q計 (6-8月)	3Q計 (9-11月)	12月	1月	2月	4Q計 (12-2月)	通期
CR	106.0%	107.8%	107.5%	106.3%	106.1%	103.9%	105.6%	106.7%
SFP	105.7%	103.8%	105.3%	103.7%	107.2%	102.9%	104.7%	104.9%
専門ブランド	104.7%	108.4%	107.8%	104.8%	102.8%	103.1%	103.6%	106.1%
海外	110.9%	108.3%	107.1%	109.5%	112.6%	108.1%	109.6%	106.6%
連結	106.1%	107.2%	107.1%	106.0%	106.1%	104.2%	105.5%	106.1%

(単位:百万円)

カテゴリー	2024年2月期(累計)			2025年2月期1Q			2025年2月期2Q			2025年2月期3Q			2025年2月期4Q			2025年2月期(累計)			対前年差異		
	売上収益	対前年CF※2	売上比	売上収益	対前年CF※2	売上比	売上収益	対前年CF※2	売上比	売上収益	対前年CF※2	売上比	売上収益	対前年CF※2	売上比	売上収益	対前年CF※2	売上比	売上収益	対前年CF※2	売上比
CR	50,931	5,602	11.0%	13,372	1,567	11.7%	13,595	1,565	11.5%	14,153	1,380	9.8%	13,656	1,340	9.8%	54,777	5,853	10.7%	+3,845	+250	△0.3%
SFP	29,079	2,924	10.1%	7,671	863	11.3%	7,365	526	7.2%	7,273	597	8.2%	8,078	1,038	12.9%	30,389	3,026	10.0%	+1,309	+101	△0.1%
専門ブランド	47,869	4,907	10.3%	12,821	1,495	11.7%	12,749	1,421	11.1%	11,787	1,087	9.2%	12,457	1,457	11.7%	49,815	5,461	11.0%	+1,946	+553	+0.7%
海外	19,706	2,409	12.2%	5,045	613	12.2%	4,820	440	9.1%	6,417	502	7.8%	6,979	655	9.4%	23,262	2,212	9.5%	+3,556	△196	△2.7%
その他調整等※3	△1,826	9,739	-	△624	2,567	-	△350	2,157	-	△694	2,823	-	△220	2,022	-	△1,889	9,571	-	△63	△167	-
合計	145,759	25,583	17.6%	38,286	7,106	18.6%	38,180	6,112	16.0%	38,935	6,391	16.4%	40,951	6,514	15.9%	156,354	26,124	16.7%	+10,595	+541	△0.8%

(注) 2024/6/1付のグループ内組織再編(クリエイト・ダイニング社とLG&EW社の合併:同4/12付にて別途開示)及び同9/1付の同再編(KRフードサービス社がもつコントラクト事業をクリエイト・レストランツ社が吸収分割:同6/20付にて別途開示)を加味して、前期累計及び当期実績ともに、カテゴリー組み替え後の数値を反映しています

※1:既存店前年比は、前年の2024年2月期の数値を用いて、且つ休業店舗も含めて算出しています

※2:カテゴリーCF=営業利益(日本基準)+減価償却費+協賛金収入+非経常的費用項目

※3:その他調整等は、IFRS16号適用に伴う減価償却費のほか、主に各カテゴリーには配分していない本社経費等です

3. 要約貸借対照表

- ✓M&Aによる2社の連結開始により資産合計は1,372億円に増加
- ✓最終利益積み上げにより、自己資本比率(29.3%)・調整後自己資本比率(42.9%)は前期から着実に改善

(単位:百万円)

	2024年2月期	2025年2月期	増減	備考
流動資産	31,340	30,625	△ 715	
〔現預金〕	21,305	21,474	+169	
非流動資産	99,475	106,543	+7,068	M&A2社連結開始
〔のれん〕	23,726	26,544	+2,818	M&A2社連結開始
資産合計	130,816	137,168	+6,352	
流動負債	37,533	44,793	+7,260	
非流動負債	53,911	48,386	△ 5,525	
〔社債及び借入金(合計)〕	27,582	26,216	△ 1,366	新規借入以上の約定弁済
負債合計	91,444	93,179	+1,735	
資本合計	39,371	43,989	+4,618	
〔親会社所有分〕	35,969	40,167	+4,198	
負債及び資本合計	130,816	137,168	+6,352	
自己資本比率 (親会社所有者帰属持分比率)	27.5%	29.3%	+1.8%	
ネットD/レシオ	1.29倍	1.15倍	△ 0.14倍	

<参考>IFRS16号の影響を除いた数値

	2024年2月期	2025年2月期	増減	備考
資産合計(IFRS16号影響を除く)	94,252	98,522	+4,270	
負債合計(IFRS16号影響を除く)	52,030	52,339	+309	
〔親会社所有分〕(IFRS16号影響を除く)	38,767	42,305	+3,538	
調整後自己資本比率 ※1	41.1%	42.9%	+1.8%	
調整後ネットD/レシオ ※2	0.18倍	0.16倍	△ 0.02倍	

※1:調整後自己資本比率:自己資本比率(親会社所有者帰属持分比率)からIFRS16号の影響を除外した比率

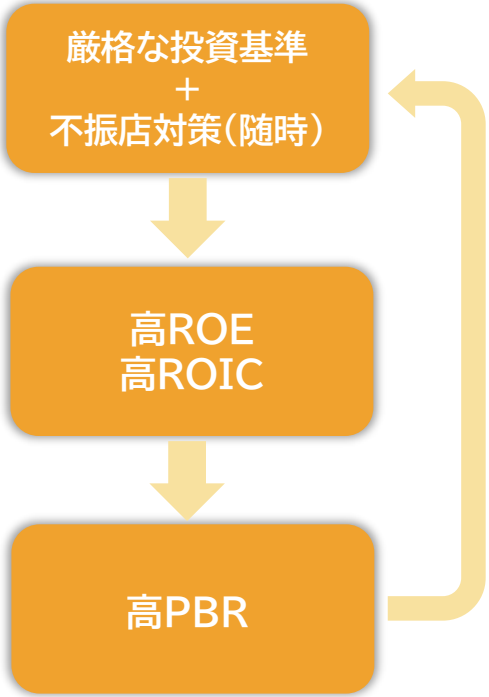
※2:調整後ネットD/レシオ:ネットD/レシオからIFRS16号の影響を除外した倍率

4. 資本コストを意識した経営の実現

- ✓ROE(14.7%)は株主資本コスト(※1)(9.2%)を安定的に上回って推移
 - ①厳格な投資基準:調整後ROIC(※2)(24.7%)は、税前WACC(※3)(12.4%)を大きく上回る形で運用(25年2月期:新店32店舗)
 - ②投資時の想定が外れて不採算となった場合は、業態変更(同:16店舗)や退店(同:51店舗)を速やかに実施
- ✓10%超のROEにより、PBRも6倍超で推移(依然高い水準を維持)

	2024年2月期	2025年2月期
ROE	15.4%	14.7%
株主資本コスト(税後) ※1	7.9%	9.2%
調整後ROIC ※2	24.5%	24.7%
税前WACC ※3	11.6%	12.4%
PBR	6.13倍	6.53倍

※1:株主資本コスト(税後)類似上場企業を参考にCAPM(資本資産価格モデル)により算出
※2:調整後ROIC = 調整後EBITDA ÷ 株主資本及び有利子負債の期初・期末残高の平均
※3:税前WACC = (株主資本コスト / (1 - 実効税率)) × 株主資本比率 + (負債コスト × 負債比率)



引き続き、「事業の資本収益性の維持向上」と「株主還元」とのバランスを図り、企業価値の向上を目指す

5. 要約キャッシュ・フロー計算書

- ✓営業キャッシュ・フロー：利益増及び運転資本の改善により前期比27億円改善し+260億円の収入
- ✓投資キャッシュ・フロー：M&A2件の投資もあり前期比56億円支出が増え△92億円の支出
- ✓財務キャッシュ・フロー：主にM&A2件実行に伴う借入の増加があり58億円改善し△167億円の支出

(単位:百万円)

	2024年2月期	2025年2月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,292	25,991	+2,699
税引前当期利益	6,632	7,659	+1,027
減価償却費	15,512	15,487	△25
減損損失	3,097	1,763	△1,334
その他の増減	△1,949	1,082	+3,031
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,601	△9,199	△5,598
有形固定資産の取得による支出	△3,273	△3,410	△137
MA関連投資	0	△5,234	△5,234
その他	△328	△555	△227
財務活動によるキャッシュ・フロー	△22,496	△16,657	+5,839
長期・短期借入金・社債の増減	△7,795	△1,369	+6,426
リース負債の返済による支出	△13,120	△13,478	△358
配当金の支払額(非支配株主持分含む)	△1,561	△1,808	△247
その他	△20	△2	+18
現金及び現金同等物の増減	△2,589	168	+2,757
現金及び現金同等物の期末残高	21,305	21,474	+169

6. キャッシュアロケーション

- ✓「成長に向けた投資」と「財務規律の維持」の両立を考え資金配分を実行
- 国内・北米各1件のM&A及び投資効率の高い改装を中心とした設備投資等、成長に向けた投資の大部分を借入で実行
 - 配当金及び有利子負債の返済等は、主に既存店が生み出す調整後EBITDAから充当

キャッシュイン

待機資金7億円
借入
71億円
調整後EBITDA
261億円



キャッシュアロケーション

M&A	(国内)一幻フードカンパニー (北米)Wildflower	53億円
設備投資	・ 新規出店(32店) ・ 業態変更(16店) ・ 改装/修繕 ・ DX(配膳・下膳ロボ等)	35億円
株主還元	配当金	18億円
IFRS16号のリース負債返済		135億円
借入返済		84億円
税金		14億円

Ⅱ. 2026年2月期業績予想 及び株主還元策

1. 2026年2月期通期業績予想の概要

三期連続の増収増益(過去最高更新)を予想

売上収益1,650億円(前期比+86億円)、営業利益96億円(同+11億円)、親会社の所有者に帰属する当期利益58億円(同+2億円)、調整後EBITDA272億円(同+11億円)

事業環境

- ・[需要サイド]週末や祝日を中心にしたメリハリ消費やインバウンド需要は継続
- ・[供給サイド]年収の壁の上昇による緩和はあるものの引き続き人手不足、食材も高騰状況にありインフレは継続

前提

- ・売上収益は適正価格化の継続を通じ既存店前年比(通期)102.8%を想定
- ・新規出店はコアブランドや業務受託を中心に37店舗を予定
- ・新業態開発を含む業態変更や戦略的な改装・改修にも積極的に取り組む
- ・既存店の更なる「質」の向上に取り組み、店舗への積極的なテクノロジー投資を実行
- ・人財への取り組み強化として、社員の昇給ファンド総額の5.0%拡大や外国人財の活躍を推進

	2025年2月期		2026年2月期 (通期予想)		差異	増減率
	(単位:百万円)	実績	売上比	予想	売上比	
売上収益		156,354		165,000		+8,645 +5.5%
営業利益		8,504	5.4%	9,600	5.8%	+1,095 +12.9%
税引前利益		7,659	4.9%	8,800	5.3%	+1,140 +14.9%
当期利益		6,228	4.0%	6,500	3.9%	+271 +4.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益		5,590	3.6%	5,800	3.5%	+209 +3.7%
調整後EBITDA※1		26,124	16.7%	27,200	16.5%	+1,075 +4.1%
実質営業利益※2		10,794	6.9%	11,600	7.0%	+805 +7.5%

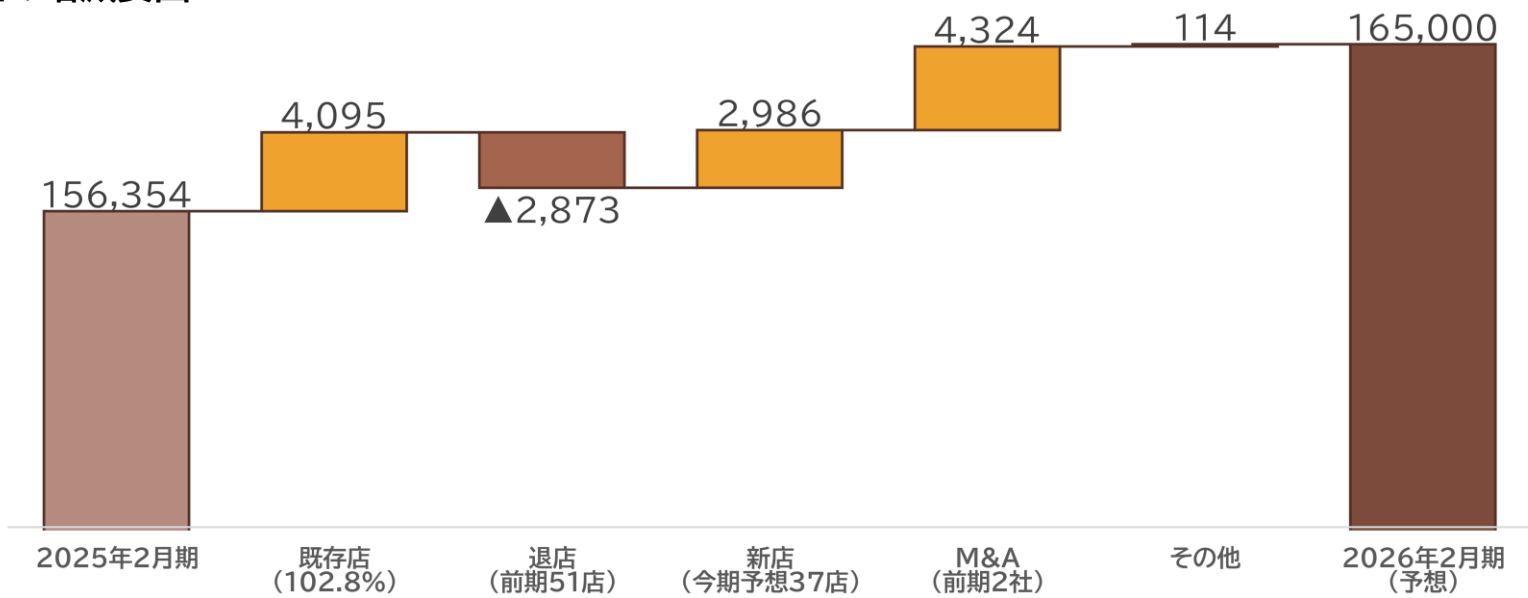
※1:調整後EBITDA=営業利益+その他の営業費用-その他の営業収益(協賛金収入を除く)+減価償却費+非経常的費用項目(株式取得に関するアドバイザー費用等)

※2:実質営業利益は、営業利益から減損損失等一過性の費用を除いた数値です

2. 2026年2月期通期業績予想(売上収益及び営業利益の増減について)

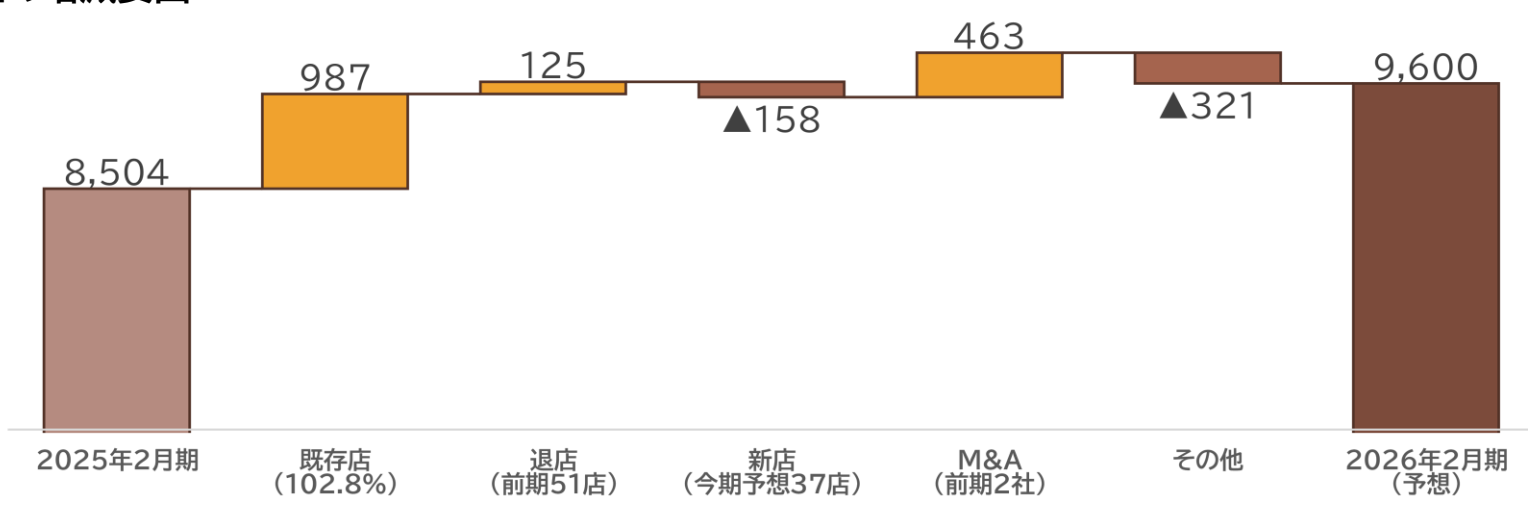
✓売上収益の増減要因

(単位:百万円)



✓営業利益の増減要因

(単位:百万円)



3. 2026年2月期通期業績予想(カテゴリー別)

(単位:百万円)

カテゴリー	2025年2月期 (前期実績)			2026年2月期 (通期予想)			差異		
	売上収益	カテゴリーCF※1	売上比	売上収益	カテゴリーCF※1	売上比	売上収益	カテゴリーCF※1	売上比
CR	54,777	5,853	10.7%	57,000	5,900	10.4%	+2,223	+47	△0.3%
SFP	30,389	3,026	10.0%	32,500	3,300	10.2%	+2,111	+274	+0.2%
専門ブランド	49,815	5,461	11.0%	50,000	5,500	11.0%	+185	+39	+0.0%
海外	23,262	2,212	9.5%	27,000	3,100	11.5%	+3,738	+888	+2.0%
その他調整等 ※2	△ 1,889	9,571	-	△ 1,500	9,400	-	+389	△ 171	-
合計	156,354	26,124	16.7%	165,000	27,200	16.5%	+8,646	+1,076	△0.2%

✓カテゴリー別前期比について

店舗数の純増もあり、国内・海外全カテゴリーで前期に対し増収増益の予想

CRカテゴリー:

前期に実施した業態変更と改装の効果を含む既存店の収益改善

SFPカテゴリー:

適正価格化及び前期出店店舗の通期貢献

専門ブランドカテゴリー:

サンジェルマン社及びレフボン社のPMI進捗、一幻フードカンパニー社の通期貢献

海外カテゴリー:

Il Fornaio社の本社経費スリム化による収益貢献、Wildflower社の通期貢献によるマージン率の上昇

※1:カテゴリーCF=営業利益(日本基準)+減価償却費+協賛金収入+非経常的費用項目
※2:その他調整等は、IFRS16号適用に伴う減価償却費のほか、主に各カテゴリーには配分していない本社経費等です

【2026年2月期 出退店予想一覧】

カテゴリー	2025年 2月末 店舗数	増減数		2026年 2月末 予想店舗数
		出店	退店	
CR	518	19	10	527
SFP	203	10	0	213
専門ブランド	325	8	3	330
海外	70	0	0	70
グループ 総店舗数	1,116	37	13	1,140

4. 株主還元策① ～配当について～

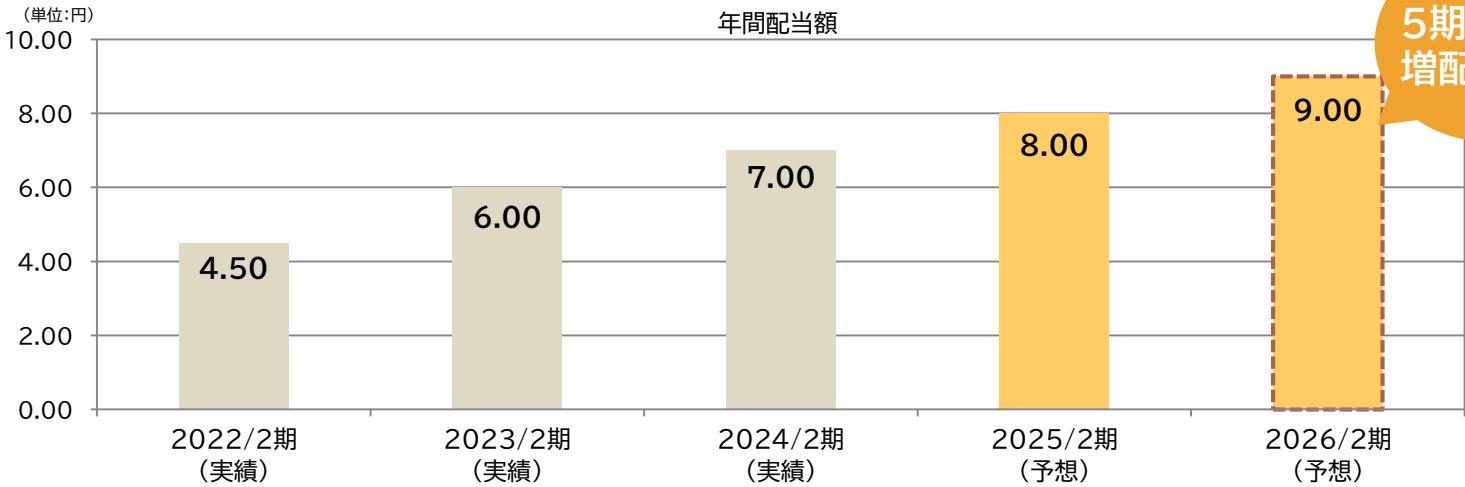
配当

配当方針：
当社は、株主への利益還元を経営上の重要政策として位置づけ、安定的な配当を行うことを基本方針とし、中間配当と期末配当の年2回の配当を実施予定
→配当金額は、原則として「実質・調整後EBITDA配当性向※」14%以上を目途とし、業績や財務状況、今後の事業展開等を総合勘案した上で決定

※ 実質・調整後EBITDA配当性向(IFRS16号の影響を除く)
＝配当金総額÷(調整後EBITDA－IFRS16号のリース負債返済額)×100

	2024/2月期(実績)	2025/2月期(予想)	2026/2月期(予想)
実質・調整後EBITDA配当性向	13.1%	14.8%	15.6%

✓2026年2月期の配当予想：中間4.50円、期末4.50円 〈年間9.00円〉



4. 株主還元策② ～株主優待の電子化について～

株主優待

企業方針として重要な株主還元策と位置づけ、今後も継続して実施

株主様ご優待券の電子化のご案内

2023年10月及び2024年4月に発表した「株主様ご優待券の電子化」に基づき、2025年5月発送分(権利確定日:2025年2月末日)から以下のとおり変更

利便性
向上！



	変更前	変更後
贈呈基準/優待金額/有効期限	変更なし	
券 種	500円×4枚＝1シート (優待金額によってシート数増)	額面2,000円、4,000円、6,000円、8,000円、 10,000円 (優待金額によって組み合わせ)
利用単位	500円/枚単位(お釣りなし)	1円単位(一部店舗では10円単位)、最大は会計金額全額 ・ 会計金額(税込)から、優待券の残高を差し引きます ・ 差し引く金額の指定はできません
利用可能店舗確認	当社ホームページまたは店頭	専用アプリ、当社ホームページまたは店頭

※ご利用方法は、5月中旬発送の優待券に同封の案内をご確認ください

Ⅲ. トピックス

1. コントラクト事業の拡充

群馬の焼肉7店舗の運営受託開始（JA全農コラボ）

✓JA全農との業務提携(24年1月26日開示)の一環として、2025年4月1日より群馬県に7店舗を展開する「焼肉あぐり」の運営受託を開始、今後もコントラクト事業の拡充を図る

※当該7店舗の株主様ご優待券のご利用は同年7月1日開始を予定

コントラクト事業
総店舗数118店



群馬県産の「上州牛」「上州和牛」や国産野菜を中心に豊富なメニューを用意

《 焼肉あぐり 7店舗 》



前橋本店



新田庵



楽楽苑



朝日庵



かぶら苑



あがつま店



野田宿庵

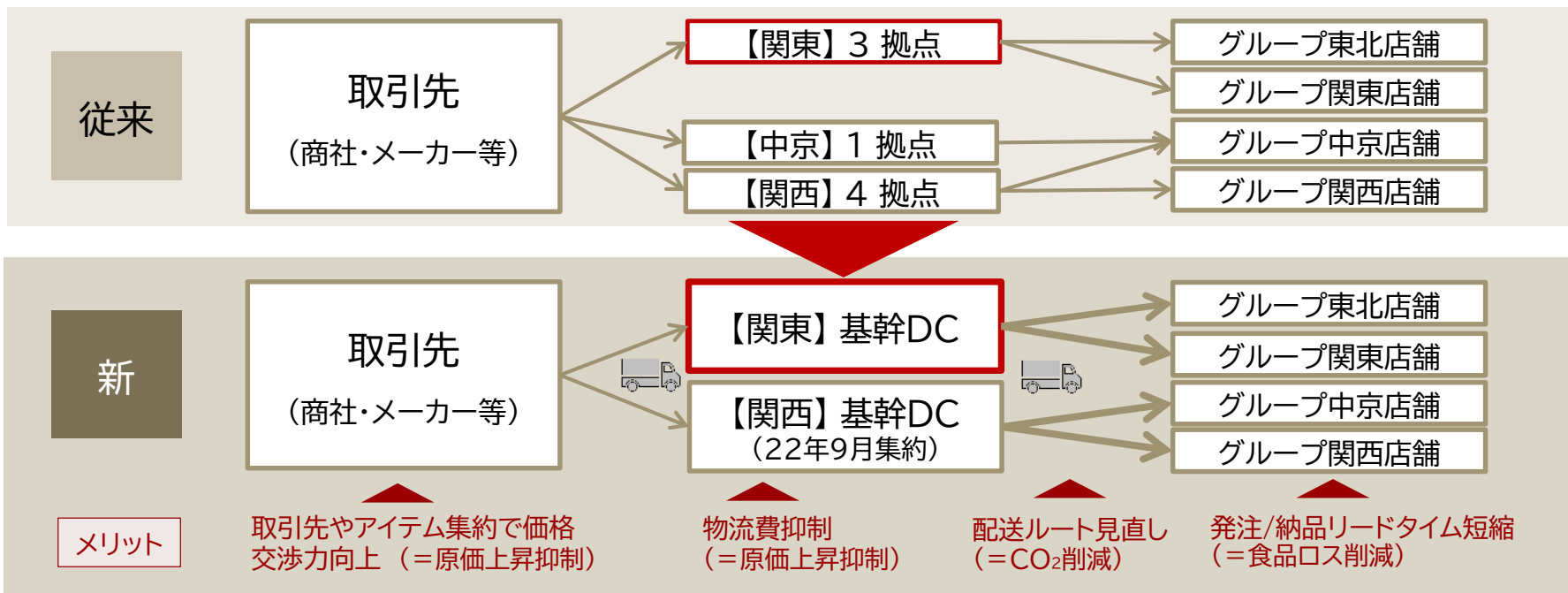
2. 関東物流センター統合

関東物流拠点を統合・新センター本格稼働開始



- ✓ グループ内の物流効率化(食材価格上昇・2024年問題対応)を目的に、複数あった関東の物流拠点を2025年3月より基幹ディストリビューションセンター(DC)※に統合し稼働開始、全国8拠点を2拠点(関東/関西)に集約完了

※ 商品の管理精度を高め、迅速に配送できる最新型物流センター



～【関東】基幹DC開所式～

2025年4月2日関東基幹DCにおいて、当社とSFP社で開所式を開催



3. グループ連邦経営の進化(FastWorks社設立)

店舗設計施工企画機能を担う合併会社を設立

✓ SFP社と、合併会社「株式会社FastWorks」を設立予定(2025年3月19日開示)

目的：店舗の設計施工管理を一元化

- ①設計施工マネジメントを強化
⇒グループ内各社のニーズを踏まえながら、取引先の集約や価格交渉力を高める
- ②設計施工業務のインソーシング
⇒グループ内にある設計施工能力を活用することで業務の内製化を推進し、コストを抑制する



名 称	株式会社FastWorks (ファストワークス)	
所 在 地	東京都品川区東五反田五丁目10番18号	
役員構成	代表取締役	武田 貴広 (現:CRH社 店舗設計管理部長)
	非常勤取締役	佐藤 誠 (現:SFP社 代表取締役)
	非常勤取締役	島村 彰 (現:CRH社 常務取締役)
設立年月日	2025年6月1日(予定)	
従業員数	20名(予定)	
資 本 金	1百万円	
出資比率	CRH社50.0% SFP社50.0%	

※CRH社:クリエイト・レストランツ・ホールディングスの略称/SFP社:SFPホールディングスの略称



4. M&Aについて

埼玉のつけ麺有名店「狼煙(のろし)」がグループイン

- ✓2025年4月14日付にて、埼玉のつけ麺有名店である「狼煙」を運営する株式会社狼煙の株式取得を発表
 - ⇒同年5月1日より当社グループ入り予定
 - ⇒「日常」「定番」「地域密着」業態であり、新中期経営計画の柱のひとつである「シナジーのあるM&A」に合致

業 態	つけ麺
店舗数	5店舗 ・ 狼煙 4店舗 ・ 手揉み中華そば中村 1店舗 ※当該店舗の株主様ご優待券の 利用開始は別途発表予定
規模	売上高333百万円、営業利益19百万円（2025年2月期見込）
契約日 実行日	2025年4月14日 2025年5月1日(予定)
狙 い	・ブランドポートフォリオの強化 ・ 専門ブランドカテゴリー内ヌードルブランドユニット3社(※)とのシナジー創出 ※①YUNARI社〈つけめんTETSU〉 ②一幻フードカンパニー社〈えびそば一幻〉 ③遊鶴社〈ごまそば遊鶴〉



大手グルメサイトで東日本ラーメン部門の名店のひとつに複数回選出

5. 前中期経営計画振り返り

1 ポートフォリオの見直し

- **コアブランド25設定**
→グループ内の200超のブランドから国内で25ブランドをコアと定め、ブラッシュアップ
- **コントラクト事業強化**
→JA全農と包括業務提携
→全農グループ41店舗の運営を受託、コントラクト事業総店舗118店体制に(2025年4月現在)
- **新業態開発と業態変更の推進**
→新業態開発組織クリエイト・ブランド・ラボ発足



2 グループ連邦経営の進化

- **グループ内組織再編**
→CD社とLGEW社の合併
→KR社コントラクト事業をCR社移管
→ヌードルブランドユニット設置
→グループ横断の人員配置
- **グループ内FCの推進**
→エリア毎に基盤のある事業会社が、グループ内ブランドを活用し出店
- **全国の物流センター統合**
→8ヶ所あったグループの物流拠点を関東/関西で集約、効率化を推進

3 M&A

- **サンジェルマン及び北海道サンジェルマン(現レフボン)**
→22年12月グループイン(計146店※)
- **Wildflower【北米】**
→24年9月グループイン(計16店舗※)
- **一幻フードカンパニー**
→24年10月グループイン(計10店舗※)



※グループイン時点の店舗数

4 人財への投資

- **人財プロジェクトチーム発足**
→人財の定着や採用の改善を目的に様々な諸施策の取り組みを実施
・昇給ファンド総額の拡大
・福利厚生諸制度変更
・研修の充実
・採用手法改善/人財定着の取り組み
・定年延長
- **外国人材の活躍推進**
→外国人材対応の専任組織設置や書類等の多言語対応でサポート

5 DX推進

- **店舗へのDX投資**
・モバイルオーダー
・配膳・下膳ロボ
・セルフレジ
・AI予約受付
- **本社の業務のDX化**
・経費精算システム導入
・グループ内ワークフローシステム導入
- **株主優待の電子化対応準備**
(25年5月発行分より)



+1 創業25周年(24年5月)

創業25周年を記念し、従業員に感謝を伝える機会として記念式典を開催

- ◆24年9月 大阪大会 @USJ 約230名参加
- ◆24年11月 東京大会(2回) @TDL&イクスピアリ 約520名参加



25周年記念の一環として期間限定で始めた社員割引の割引率アップは、大変好評であったため今後も継続

IV. Appendix

1. 出退店及び店舗数について

➤ 新規出店32店舗、退店51店舗、M&A26店舗、業態変更16店舗
⇒2025年2月末グループ総店舗数:1,116店舗

・新規出店(32店舗)の主な内訳

- ・コアブランド:「しゃぶ菜」2店舗、「磯丸水産」4店舗、「五の五」3店舗、「MACCHA HOUSE」3店舗、「海南鶏飯食堂」2店舗、「サンヴァリエ」千歳、「TANTO TANTO」KITTE博多
- ・横浜ワールドポーターズ・フードコート4店舗、「GOTTA」、「IKEDAYAMA」五反田駅前、「ひとにぎり」阪急西宮ガーデンズ
- ・新規業務受託:ゴルフ場内レストラン2店舗、SAPA内フードコート
- ・JA全農とのコラボ:焼肉「若葉亭」2店舗、「みのるダイニング」「みのりカフェ」京都ポルタ、「和牛焼肉岡山そだち」
- ・海外FC:一幻香港Mikiki店

・主に契約満了に伴う退店(51店舗)

・立地環境や顧客ニーズに合わせた業態変更(16店舗)

「しゃる うい キャンディ?」イオン姫路大津、「まるもん」「AWキッチン」イオンレイクタウン越谷、「はま天」CIAL横浜、「シクタン」2店舗、「ひとにぎり」イオン沖縄ライカム、「マシツマシツソ」イオンナゴヤドーム前、「MACCHA HOUSE」WITH HARAJUKU、「五の五」3店舗、「しゃぶ菜」ららぽーと新三郷、「焼肉じゅん」大阪DC、SAPA内レストラン2店舗

【2025年2月期 出退店一覧】

カテゴリー	2024年 2月末 店舗数	増減数		M&A	グループ内 移管等	2025年 2月末 店舗数	業態 変更 ※1
		出店	退店				
CR	502	19	33		+30	518	12
SFP	202	6	5			203	3
専門ブランド	350	6	6	5	△ 30	325	1
海外※2	55	1	7	21		70	0
グループ 総店舗数※3	1,109	32	51	26	0	1,116	16

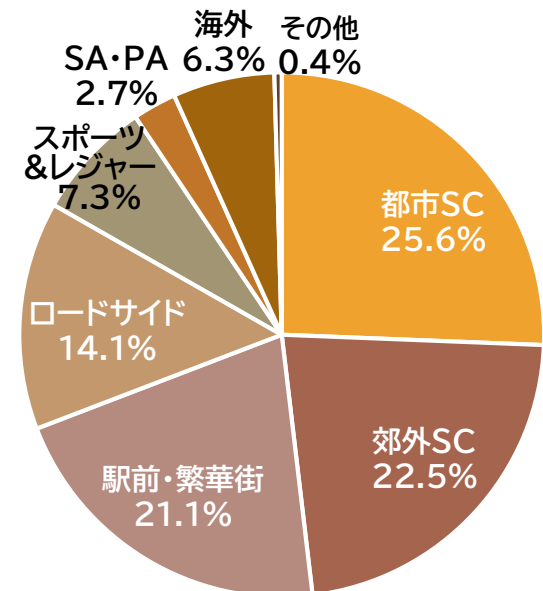
※1:グループ内における業態変更も含めた店舗数を記載しています

※2:海外カテゴリーの店舗数には、クリエイト・ダイニング社のジャカルタにおけるFC2店舗、KRフードサービス社のタイにおけるFC11店舗、一幻フードカンパニー社の香港におけるFC5店舗及び台湾におけるFC1店舗を含んでいます

※3:本資料上における期末店舗数は、2025年2月末時点での業務受託店舗、FC店舗を含むグループ総店舗数を記載しています

※4:2024/6/1付のグループ内組織再編を加味して、24年2月期末及び25年2月期末店舗数ともに、LG&EW社を専門ブランドカテゴリーからCRカテゴリーに組み替えた数値を表示しています

【立地別店舗数の構成比(2025年2月末時点)】



2. 既存店前年比の推移

【連結】

	3月	4月	5月	1Q累計	6月	7月	8月	2Q累計	9月	10月	11月	3Q累計	12月	1月	2月	通期計
2025年2月期	108.8%	104.5%	104.9%	106.1%	110.4%	103.6%	108.1%	106.6%	108.8%	104.1%	108.9%	106.5%	106.0%	106.1%	104.2%	106.1%
2024年2月期	146.0%	121.1%	115.4%	126.1%	111.5%	118.1%	121.3%	121.4%	114.5%	107.2%	110.3%	117.5%	112.1%	110.7%	109.9%	116.0%

【カテゴリー別】

		3月	4月	5月	1Q累計	6月	7月	8月	2Q累計	9月	10月	11月	3Q累計	12月	1月	2月	通期計
CR	2025年2月期	110.2%	104.2%	103.7%	106.0%	112.0%	104.1%	107.5%	106.9%	109.7%	103.7%	109.3%	107.2%	106.3%	106.1%	103.9%	106.7%
	2024年2月期	137.4%	125.9%	118.7%	126.8%	116.5%	124.6%	126.3%	124.8%	118.4%	111.2%	114.1%	121.2%	113.6%	112.8%	114.5%	119.1%
SFP	2025年2月期	107.9%	103.9%	105.3%	105.7%	107.4%	100.4%	104.0%	104.8%	105.8%	102.1%	108.1%	104.9%	103.7%	107.2%	102.9%	104.9%
	2024年2月期	276.6%	132.7%	121.7%	154.5%	113.8%	128.4%	136.5%	139.1%	122.2%	109.1%	111.1%	129.6%	116.3%	111.3%	111.3%	125.1%
専門 ブランド	2025年2月期	107.8%	103.9%	102.5%	104.7%	110.2%	103.6%	111.1%	106.5%	109.6%	104.8%	109.1%	106.8%	104.8%	102.8%	103.1%	106.1%
	2024年2月期	122.7%	112.7%	108.8%	114.5%	104.3%	110.0%	115.0%	112.3%	109.4%	103.2%	109.0%	110.5%	111.1%	110.6%	108.4%	110.6%
海外	2025年2月期	108.7%	108.1%	114.1%	110.9%	111.1%	107.8%	107.9%	108.6%	108.8%	106.0%	108.7%	105.9%	109.5%	112.6%	108.1%	106.6%
	2024年2月期	140.9%	117.1%	117.1%	123.3%	114.8%	110.0%	108.8%	116.0%	108.6%	105.2%	103.4%	111.5%	106.5%	104.5%	102.1%	110.8%

※既存店前年比は、前年の2024年2月期の数値を用いて、且つ休業店舗も含めて算出しています

3. サステナビリティへの取り組み

ロサンゼルス山火事被災地支援

Il Fornaio
CUCINA ITALIANA

米国LAを中心にイタリアンレストランを展開

25年1月に発生した米国ロサンゼルス近郊での大規模な山火事への被災地支援として、Il Fornaio社は、**救援活動従事者への計880食の食事提供**や現地の他のレストラン等と共同で**売上の一部を寄付**する活動に参加、同社より3万USDを寄付



被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます

当別高校奨学金協力企業に

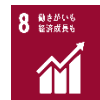
北の大地のベーカリー
レフボン

北海道でベーカリーを展開

レフボン社は、北海道当別高等学校が始める「製菓衛生師(国家資格)」の資格取得を目指す生徒を対象とした**奨学金制度**(※1)に、**連携協力企業**としての参加を決定、25年3月27日に同校及び当別町商工会と3者で協定書を締結



※1:資格の通信教育受講や受験費用等を連携協力企業が奨学金として支出、生徒は支出を受けた企業でアルバイトとして働き、企業研修を兼ねつつ返済する制度、令和7年入学生より開始



ココロのバリアフリー加盟推進

いっちょ

北関東を中心に和食レストランを展開

いっちょ社の運営する全47店舗(いっちょ42店、萬家5店)が、NPO法人ココロのバリアフリー計画(池田君江理事長)が推進する「**ココロのバリアフリー**」応援店(※2)に25年3月1日より加盟

既加盟のクリエイティブ・ダイニング社の57店と合わせて当社グループでは104店が応援店に



※2: 同法人運営のWebサイトへバリアフリー情報掲載し、店頭にステッカーを掲示した上で、お客様へ出来る限りのお手伝いを行うことを宣言した店舗



4. 会計監査人の異動について

✓2025年5月28日開催予定の第28期定時株主総会の承認を経て、会計監査人の異動を予定
(25年2月20日開示)

(1)異動予定日：
2025年5月28日(第28期定時株主総会開催予定日)

(2)就退任する会計監査人の概要：

	現（退任予定）	新（候補者）
名称	有限責任監査法人トーマツ	PwC Japan有限責任監査法人
所在地	東京都千代田区丸の内三丁目2番3号 丸の内二重橋ビルディング	東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング
業務執行社員 の氏名	田村 剛 関 信治	清水 健太郎 島袋 信一

➤ PwC Japan有限責任監査法人
日本の「4大監査法人」のひとつであり、多くの上場企業をクライアントとして持ち、外食大手企業、多店舗
ビジネスやIFRS経験も豊富な監査法人

ご注意

本資料は、2025年2月期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません

また、本資料に記載した内容は、資料作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、その情報の正確性、完全性を保障または約束するものではなく、予告なしに変更される可能性があります

《IRに関するお問い合わせ先》

IR部

8022@createrestaurants.com